

日本臨床検査自動化学会科学技術委員会  
平成 30 年度第 1 回委員会議事録

1. 日時：平成 30 年 4 月 6 日（金）16:40～18:15
2. 場所：ホテル日航奈良 5F 百合  
（日本臨床検査自動化学会第 32 回春季セミナー）
3. 出席者（敬称略）：池田、白井、山舘、三村、神山、松本、山本慶、篠原、河口、  
外園、高崎、柏木、田中、谷本、御子柴、金沢、青柳、山本裕、  
和田、菊地、澤部  
欠席者（敬称略）：大久保、村本、松原、藤本、浅田、高笠、沼田、大竹、清宮、  
桑、大澤、細萱、片岡
4. 配布資料：  
資料 1：第 18 回科学技術セミナー参加者数  
資料 2：第 18 回科学技術セミナーアンケート結果  
資料 3：第 18 回科学技術セミナー・コメント  
資料 4：平成 29 年度第 2 回科学技術委員会議事録  
資料 5：平成 30 年度科学技術委員会委員名簿  
資料 6：第 19 回科学技術セミナー企画（案）  
資料 7：平成 30 年度科学技術委員会活動計画  
資料 8：科学技術委員会技術マニュアル・既刊と提案

5. 議事：

議事に先立ち、今年度より新規委員となられた山本委員、和田委員、菊地委員より挨拶があった。

1) 報告事項

(1) 第 18 回科学技術委員会技術セミナー報告

昨年 9 月の横浜での大会時に開催された第 18 回科学技術セミナーについて報告があった(資料 1～3)。287 名と非常に多くの方に参加いただき、ほぼ満席の状態であった。セミナーの評価もおおむね良好であった。参加者からのアンケートに各種の要望事項が挙げられているので、今後のセミナー実施において参考としたい旨の発言が委員長よりあった。

2) 審議事項

(1) 平成 29 年度第 2 回委員会議事録の承認

前回の委員会議事録はすでにメールにて配信され確認いただいているが、改めて承

認された（資料 4）。

（2）平成 30 年度科学技術委員会委員について

今年度の委員は資料 5 の通りで、今回から 3 名の新規委員の先生に参加いただいている。委員会名簿について、記載内容の変更、誤記等がある場合は、事務局（澤部）まで連絡をお願いしたい。

（3）科学技術委員会第 17 集マニュアルの進捗状況

「今さら聞けない臨床化学・免疫化学のポイント（仮題）」をテーマとして発刊の準備を進めており、3 月 28 日に池田・大久保・神山・澤部各委員で編集会議を実施した。昨年のセミナー時やホームページに質問事項を募集して、多数の質問をいただいたが、同類の質問をまとめるなどして、58 の質問・回答集とした。神山先生に編集幹事をお願いするとともに、委員の先生方全員へ質問への回答を依頼した。回答はほぼ集まっており、書式や表現方法を統一するなど、編集作業を現在実施中である。例年通り 120 ページ位のボリュームで、現場で役立つものに仕上がる予定である。

（4）第 19 回科学技術委員会技術セミナー企画について

資料 6 に基づいて今年度のセミナー企画案の説明があった。大会が 10 月 11～13 日に神戸にて開催されるが、技術セミナーは初日（11・木曜日）の 15 時 10 分～17 時 40 分で実施予定である。質問内容は多岐に亘るが、大きく 4 つのブロックに分けて 4 名の先生方に自分の担当以外の関連分野も含めて発表いただく予定である（1. 生化学検査機器に関するいまさら聞けないポイント：白井先生、2. 測定試薬に関するいまさら聞けないポイント：清宮先生、3. 基本的な器具取扱いに関するいまさら聞けないポイント：大久保先生、4. いまさら聞けない「臨床検査技師」資格の意味するもの：松原先生）。演者の先生方にはすでに内諾をいただいている。マニュアル集を基にセミナーを企画していることを知らない人もいるようなので、その周知も考えることになった。

（5）今後の委員会活動について

資料 7 に基づいて、今後の委員会活動、技術セミナーの開催、マニュアル第 17 集の発刊予定について説明があった。また、委員会にさらに新規委員を加えたいため推薦をお願いしたいこと、追加の幹事の先生方を決定して委員会活動に参画していただきたいこと、科学技術委員会においては委員会規約がないため、他の委員会規約も参考に今後規約を作成予定であることの説明があった。

（6）第 18 集のマニュアル企画について

資料 8 を基に、既刊のテーマと今後のマニュアル企画案について説明があった。前回

の委員会において、「免疫に関する測定法や装置について」、「現場で異常データを見つける糸口・方法について」、「検査データの活用・使い方のスキルを高めるマニュアル」の3テーマが挙げられている。新規テーマについても議論があり、「血液ガス分析装置の仕組みと適正な利用法（検体採取・取扱いも含めて）」、「こんなはずじゃなかったシリーズ（解決法も含めた事例集）」などが議論された。内容によっては他の技術委員会と重なる部分も出てくるが（検査データの活用：医療情報委員会、POCT 機器の精度管理：POC 技術委員会、血液凝固検査：血液検査機器技術委員会など）、共同で行うことも考えられる。次回の委員会にてさらに議論を進めることになった。

#### （7）その他

学会会員証について：

学会より会員証カードが配布されたが、今年の大会時より学会や委員会の参加受付等に使用予定であるので、持参をお願いしたい。

共催シンポジウムについて：

臨床検査医学会学術集会において、自動化学会との共催シンポジウムを科学技術委員会が担当して実施することになった。「自動化機器から発信される臨床検査情報の活用」をテーマとして実施予定である。プログラム等の資料を用意しなかったため、議事録の配布時に送付する。

（記録：澤部）